

八幡神社の懸仏かけぼとけ



裏面板部

懸仏は、丸い銅板などの上に神像や仏像を表し、神社や寺院の御神体・御本尊を祭った内陣ないじんに懸けていました。
八幡神社には釈迦如来座像を表した金属製の懸仏が三面伝えられていて、いずれも原形をよく保ち、保存

状態も良好です。

一つは、径三十四・五センチの大きさであり、第六代美濃国守護土岐頼益が応永十年（一四〇三年）頃奉納したものです。頼益は、父の没後の応永四年（一三九七年）、土岐総領・美濃守・守護職の跡を継いで応永二十一年（一四一四年）六十四歳で没するまで強大な力を誇りました。頼益は第三代將軍足利義満や第四代將軍足利義持に信任され、従五位下・左京大夫（左京職の長官）の官位を授けられて侍所所司しやくしよし（鎌倉・室町幕府の重要な機関。室町幕府では長官を所司といった）になり、幕府足利家の重臣に数えられました。
裏面板部の墨書銘には、

「奉 寄進

施入 瑞應寺

尾州葉栗郡富田郷笠田里

南無八幡大菩薩 御賣前

右之志者為現世安全後世善處也

土岐左京大夫源頼益 敬白

とあり、歴史資料としても貴重です。

二つは、径二十四センチの大きさであり、第九代美濃国守護土岐政房が文龜三年（一五〇三年）八月十五日に奉納したものです。政房は、応仁の乱において西軍山名宗全の陣営に味方し、美濃勢八千余騎を率いて常に西軍の一大主隊として十余年にわたって各地に転戦した第八代守護土

岐成頼の嫡男ちやくなんです。將軍足利義政から偏諱へんぎ（貴人などの二字以上の名の中の一字。將軍あるいは大名などが家臣の功ある者、または元服の際などに名の一字を与えた）を受けて頼繼を政房と改名しました。土岐総領の座に就いた政房は、加納城に入り、「舞踊が上手で、文学をよくする風流武將」と称されました。永年十六年（一五一九年）六月十六日米田館（美濃加茂市）で五十三歳で没しました。

裏面板部の墨書銘には

「土岐み（美濃）守

正房

施入

文龜癸亥（三）年八月十五日

とあり、土岐頼益奉納の懸仏と共に、八幡神社と土岐氏に深い関係があったことが推測できる重要な資料です。

三つは、径二十四・五センチの大きさであり、奉納者は不明ですが、「笠町」銘と干支より天正十四年（一五八六年）六月二十四日の木曾川洪水による河道本流の移動に伴って、その後の荒地開発と「かさ松」および「笠町」の成立と八幡神社の笠町への勧請かんじゆ（神仏を移し迎えて新しく祭ること）の時期を知ることができ、重要な資料でもあります。

資料館で展示、紹介しています。

行政相談 人権相談

行政相談、人権相談は自宅でも応じています。

いずれの相談も秘密は固く守られますのでお気軽にご相談ください。

| | | | | |
|------|--------|-------|--------|------------|
| 行政相談 | 行政相談委員 | 加藤 司郎 | 県町105 | ☎ 387・2793 |
| 人権相談 | 人権擁護委員 | 栗本 幸一 | 東宮町30 | ☎ 388・0553 |
| | | 齋藤 好子 | 中川町20 | ☎ 387・0812 |
| | | 後藤 稔 | 北及1183 | ☎ 388・1495 |
| | | 杉原 貴子 | 中野256 | ☎ 388・1496 |